

海事プレス掲載記事のご紹介

2024/07/04 10:12

横浜本社にショールーム開設日本船用エレクトロニクス、商談や社員研修にも活用 | 造船・船用 | ニュース | 海事プレスON...

海事プレス KAIJI PRESS
ONLINE

HOME > ニュース > 造船・船用

2024年7月4日

横浜本社にショールーム開設 日本船用エレクトロニクス、商談や社員研修にも活用

日本船用エレクトロニクスはこのほど、横浜市の本社2階に、同社が取り扱う商品の実機を展示するショールームを開設した。商品のPR拠点として活用するほか、顧客との商談や打ち合わせ、懇談の場として用いていく。越谷和久社長は、「ここをコミュニケーションの場にしていきたい」と語る。さらに、社員らの研修にも役立てる方針だ。

越谷社長はショールーム開設の目的について、「従来、当社商品を見て触ってご意見いただく場がなかったため、そのために活用していきたい」と説明する。また、ショールームを設けることで、造船所や船主らが東京を訪れた際に、同社が本社を置く横浜まで足を延ばしてもらうきっかけにしたいとの思いもある。

ショールームは、同社が近年注力する、船内の安心・安全に関する情報を見える化するグラフィカルセーフティシステム「NHE CONNECT」の展示をメインに、火災探知装置、船用時計、船内指令装置、電話自動交換機、電話機、積付計算機システム、監視カメラシステムーの7つのプロダクトを並べる。従来、7つのプロダクトは個別に取り扱われていたが、将来的にはこれらのプロダクトをNHE CONNECTでつなげることで、顧客価値の創造に結び付けることを目指しており、同社が目指す将来像としてパネルでも紹介している。

NHE CONNECTは、既に火災探知装置とカメラとの連携を実現しており、さらなる機能拡充に向けた開発を推進中。越谷社長は、「NHE CONNECTを含め、当社の取り組みは常に前進しており、その説明の場にも使っていく」とする。

ショールームにはテーブルやスクリーンも備え、顧客や取引先、製造委託メーカーとの商談や打ち合わせの場にも用いる。「新商品のアイデア出しにもつなげたい」と越谷社長。また、同社は近年、換装ビジネスにも注力することから、海外船主とのつながりも増えており、「来日してもらった際に、商品を見ながら、ゆっくり懇談する場にできれば」。

海事プレスONLINE <https://www.kaijipress.com/news/shipbuilding/2024/07/185415/>

さらに、自社社員の研修の場としても役立つ。従来、社員の本社研修は座学が中心で、実機の取り扱いについてはOJT研修が主だったが、「ショールームで実機に触れてもらうことで、仕組みや取り扱い方法を早く覚えてほしい」。また、協力会社にもショールームで実機を見てもらうことで、次の商品開発や売り込みにつなげてもらうことを期待する。

ショールームは6月から利用を開始しており、海外船主を含め既に複数社が訪れているという。商品PR、そして顧客や業界関係者らとの「社交の場」として、展開していくことを目指す。



顧客との商談のほか社員研修にも活用するショールーム



ショールーム内には、船用時計など7つのプロダクトを展示する



入り口すぐのコーナーには、NHE CONNECTを中心に据えた、同社が目指す姿が展示されている

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.